

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年7月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105198
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島市吉野町2丁目4-8 (電話) 099-295-7878
自己評価作成日	令和2年1月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町1番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、2階建ての建物で、住宅地の中に立地している。吉野北町内会に加入して町内会の催し物にも参加している。近所のばくっば公園で開催される町内会ふれあい運動会には毎年利用者がほぼ全員参加されている。車椅子や杖歩行の利用者でも参加できる種目もあるので、毎回利用者の皆様にとっても喜んでいただいている。町内会の子供たちから高齢者の方々まで交流を図ることができ地域とのつながりが出来ている。長年の交流でグループホームへの理解も得られるようになった。また利用者の皆様に季節を感じていただけるよう、各居室の入口に、月ごとの壁飾りを利用者と職員が作成し飾っている。ホールには、ひな飾り、かぶと飾り、七夕飾りなども季節に合わせて飾っています。外出行事は毎年、お花見、そうめん流し、コスモス見学等を実施している。利用者の皆様は、とても楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市の住宅街に建てられているホームで、近隣には大型スーパーをはじめ商店や郵便局、保育園、小学校などがある。中庭の木々は手入れが行き届き、ベンチも置かれて日光浴にも適した環境である。隣接する菜園には多くの野菜や花が栽培され、利用者と一緒に手入れや収穫が行われている。

母体医療機関との連携も十分に図られて定期的に訪問診療を受けることができ、また、ケアの経過は申し送りノートや生活経過・介護記録などに詳細に記録されて利用者や家族の大きな安心につながっている。

町内会に加入して会合や地域の清掃活動、運動会に参加して、多くの地域住民と親しく交流している。また、地域の方々からの相談への対応や認知症の説明、夏祭りなどの法人の行事をはじめ、ホームの運営推進会議やもちつきなどに地域の方々に参加してもらっている。災害時を想定した協力体制の構築なども図っている。

利用者の思いや家族の希望などを管理者および職員は日々の暮らしの中で把握に努め、ケアに迅速かつ具体的に反映できるように取り組んでいる。職員同士の連携も良好で、毎月の定例会やカンファレンスでも意見交換は活発に行われている。

研修や勉強会も、法人全体で計画・実施されるとともに、ホームの定例会やカンファレンス、各委員会等でも積極的に、また、繰り返し実施されており、管理者自らも会議や日常のケアの場も活用して職員の育成に取り組み、より良いケアの実現に職員と一体となって取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はホールに提示し、常に意識づけをしている。定例会、各委員会などで理念を唱和し、理念に基づいた支援をこころがけている。	法人の理念及びホームの理念、方針、年度目標等に沿って、地域とのふれあいの中で利用者が楽しく安心して、そして尊厳を持って過ごせるように日々のケアに取り組んでいる。ホールに掲示して日々のケアを通じて意義を振り返り、定例会や委員会での唱和により理念の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	吉野北町内会に加入し、町内会の集会や運動会に参加して地域の方々との交流を図っている。	町内会に加入して会合や地域の清掃・運動会などに参加し、地域の方と親しく交流している。ボランティアの受入れのほか、地域の方々の相談への対応や認知症の説明、夏祭りなどの法人の行事やホームの運営推進会議やもちつきなどに地域の方々に参加してもらっている。近隣の方から季節の花などを届けていただくこともある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や介護相談に来所された方に認知症状の説明、対応などを専門的立場から助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催し、グループホームの活動報告を行い、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センターの方々から意見、要望をいただいている。意見や要望は、定例会などで、職員間で話し合いサービス向上に努めている。	会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して定期的に開催されている。準備した資料を基にしてホームや利用者の現況や行事・ヒヤリハット・事故等の報告のほか、意見や情報交換が行われ、得られた委員からの助言や提案を定例会で職員が共有して必要な対応などを話し合い、提供するサービス向上や業務の改善等に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただきホームの実情などを積極的に報告している。介護相談員の派遣を受け入れている。	市担当者とは認定更新の手続き等の際に、ホームの活動の状況、また、利用者の暮らしぶりやニーズなども伝え、助言や対応をしてもらっている。案内される研修会や地域のグループホーム連絡協議会等にも積極的に出席している。介護相談員の受入れとともに地域包括センターとは運営推進会議でも意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、2ヶ月に一回開催している。玄関とホールのドアは、日中は鍵をかけていないため利用者は、自由に出入りできるようにして行動の制限や妨げになる事が無いように努めている。現在身体拘束している利用者はいない。	居室や玄関等の施錠は原則として行なわないケアに取り組み、利用者が外出しそうな様子を察知した場合は、職員が連携して見守りや声かけを行っている。特に言葉による拘束の防止や高齢者虐待等については、身体拘束廃止委員会、法人及びホームでの勉強会や外部研修で、具体的な事例も交えて職員の理解を深めケアへの反映を図っている。職員は利用者個々の状況を十分把握するように努め、必要な対応を日々のケアや定例会等で繰り返し話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、法人勉強会で学ぶ機会を持ち、その後、定例会で職員で話し合いを行い、虐待防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人勉強会や定例会で、勉強の機会を持ち、職員同志で話し合いが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、管理者より「重要事項説明書及びサービス開始同意書」の項目ごとに説明を行っている。その際、本人、家族の不安や思いを伺い、理解・納得していただけるよう十分な説明を行って入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日常の支援時や会話から、家族からは面会時、家族交流会や運営推進会議などを通じて、意見や要望を伺っている。玄関には意見箱を設置している。意見や要望は、2ヶ月に1回開催される苦情処理・業務改善委員会で話し合っている。	契約時に本人及び家族の不安や思いを聞いて、わかりやすい説明を心掛けている。入所後は利用者の気持ちに寄り添いながら思いの把握に努め、家族とは電話や来所時、運営推進会議、家族交流会や行事の際などに、話しやすい雰囲気作りを工夫して多くの意見を得ている。主に毎月の定例会、苦情処理・業務改善委員会等で対応を話し合い、家族にも報告しながらサービスに具体的に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回の定例会や苦情処理・業務改善委員会などで、職員の意見や提案を話し合う機会を設け反映させている。	管理者は日頃より職員から意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努めている。日常のケア時の会話や申し送り、毎月の定例会、苦情処理・業務改善委員会等で意見や提案を聴き取っている。特に利用者のケアに関しては十分に意見交換している。研修等を通じて職員の育成や資格取得推進も図り、サービス向上や働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が資格取得に対し、支援を行っている。取得後は待遇の見直しを実施している。育児休暇や介護休暇がとれる体制を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	月に1回ある法人勉強会で法人内外の研修を行っている。外部研修にも参加する研修機会を確保している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	毎月1回開催されている法人系列のグループホームの主任会議で情報交換を行い、サービスの向上につながるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人の話を傾聴し、利用者が安心して要望等を話をしていただけるよう雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前の面談を重ね、家族の要望をお聞きしている。入居した翌日には、利用者の様子を電話連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人や家族が望むサービス内容を検討し、入居の際に際にサービスが受け入れられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など日常の家事を通じて、できることは一緒に手伝っていただいて、暮らしを共にする物同志の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族交流会などの行事への参加を通じて利用者と家族が共に過ごせる時間を多く持てるようその機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者が馴染みの人や場所の関係が継続できるように馴染みの人に面会に来ていただいたり、外出行事などに一緒に参加されるよう支援している。	電話や手紙の取り次ぎをはじめ、家族の来訪時にはゆったりと過ごせるように配慮している。利用者の希望する買い物や掃除、洗濯、食事の準備・後片付けなどの日常家事のほか、ホームに隣接する菜園での花や野菜の栽培や手入れなどを一緒に行っている。また、家族の協力を得ながら、帰宅や墓参り、買い物や外食等も可能な限り支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立する事がないように、利用者同士の関係を把握し、職員が間に入ってお互い助け合い関わりあえるよう座席配置を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居した場合、家族の許可を得て入居先に訪問し、交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者との会話の中で希望や思いを伺っている。会話が困難な利用者は、職員が声かけ、それに対する顔の表情や態度を見て意思疎通を図れるよう努めている。定例会等で、本人の思いを職員間で共有している。	利用開始時の本人や家族からの聞き取り、また、日々の暮らしの中で声かけも頻繁に行い、言葉や表情・所作から思いや意向の把握に努めている。家族とも来訪時や家族交流会などで話し合いながら職員は利用者の思いを共有して定例会等で対応を検討し、本人の希望に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や家族交流会などで家族に生活歴や生活環境等についての情報を得て、それを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し、状態の変化がわかるようにしている。毎朝の申し送りや当日のB勤の職員に申し送っている。毎月の定例会で利用者の状態変化について話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族と話し合いそれぞれの意見を聞いたうえで、職員の意見も反映しながら情報の共有を図り、利用者のニーズ捉えた介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや意見を聞き、また、主治医や看護師など関係者とも話し合い、職員の意見も加えて利用者の思いや意向を反映した介護計画を作成している。日々の様子や変化などは生活経過・介護記録に、職員の気づきや工夫も交えて正確に記述している。内容は申し送り等で共有して、定期的なモニタリングやカンファレンスで状況に合わせた支援方法を話し合い、計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活経過・介護記録や日常生活身体状況を確認して利用者の状態把握に努め、介護記録の見直しが必要かどうかを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の都合や要望で病院受診時の付き添いや買い物などに応じ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会などのイベントへの参加を通し、近隣住民の方々とのコミュニケーションを図り、本人が心身の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望される方は継続して受診できるよう支援している。他科受診の際も家族が希望する病院を受診できるよう支援している。	一人ひとりの利用前の受診状況は十分把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医による訪問診療を適切に支援している。受診の結果は申し送りノートや支援経過に記録されている。受診状況や必要な対応についても職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られ、家族とも来訪時の対話や電話により確実に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者それぞれの主治医往診時に、状態や変化を報告し、指示を受けられているように支援している。緊急時は、利用者の主治医、看護師と連携し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に病院に詳細な情報提供を行っている。入院後は、定期的に面接や病院の連携室と連絡をとり、早期退院できるよう情報交換や相談を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族に重度化や終末期に向けた方針について説明し、同意を得ている。状態に応じて、主治医・看護師・家族と連携を密にしている。	重度化や終末期のケアについては、文書を基にして契約時に利用者と家族に十分に説明して同意を得ている。利用者本人と家族の思いの変化や利用者の状況の変化に応じて職員やかかりつけ医、看護師、家族と十分な話し合いを行い、看取りのほか、病院や他の施設などへの移動も含めて、ホームとして適切な支援が提供できるように努めている。なお、定例会や法人の勉強会を通じて、職員が利用者の急変等の場合に必要な対応を行える体制づくりを図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に2回ある定例会や法人勉強会にて、利用者の急変や事故発生時の対応を全職員が同じレベルで行えるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の火災訓練を行っている。地域の消防分遣隊と近隣の方々の協力をいただき、災害時の対応ができるよう備えている。訓練に参加出来なかった職員は、実施報告書にて確認している。火災以外の災害時避難訓練も独自で行っている。</p>	<p>年2回消防署及びセキュリティ会社の協力を得て夜間想定も含めた避難訓練を行っている。また、年に数回は自主訓練も実施して職員の災害対策への意識を高めている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や点検、食料・飲料水の備蓄も問題はなく、法人内の関連施設の職員や地域住民等との緊急時対応の連携も図られている。関連する救命講習や研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苦情処理・業務改善委員会や定例会などで、介助時に利用者に対して人格を尊重したサービスが実践できているか、話し合いを行っている。	利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような不適切な言葉かけや対応がないか、苦情処理・業務改善委員会や定例会で振り返り支援に取り組んでいる。日頃より話のトーンや言葉遣いを含めて利用者とのふれあいを大切にし、個人記録や居室の保護にも十分な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者との会話のなかで利用者の希望を傾聴し、様々な事柄を自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先に、就寝時間や起床時間などは、できる限り希望に添えるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着られる衣類等は、利用者が選んだ物を着衣できるように支援している。家族や職員が衣替えを行い、季節に応じた衣類を準備を行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるような食材を使用している。利用者の好き嫌いを把握している。もやしのひげ取りなどの野菜の下ごしらえ等をお願いしている。	利用者と一緒に菜園で栽培の旬の食材も活用しながら利用者の好みも献立や味付けに反映させ、野菜の下ごしらえや食卓の準備・後片づけ等利用者のできることも一緒に行っている。季節の行事食のほか、誕生会等の特別食や手作りケーキ、ソーメン流しや季節に合った手作りのおやつ、家族との外食なども計画して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその人に合っている物を提供している。食事・水分摂取量を記録し、必要な量を摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ見守りを行い、介助が必要な利用者は職員が介助している。義歯使用者は、夕食後入れ歯洗浄剤に浸け保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握するため排泄を記録し、1～2時間毎に声かけ誘導を行っている。夜間、自分で排泄できるようポータブルトイレを設置している利用者もいる。	利用者の見守りや排泄チェック表を活用して個々のパターンを把握し、声かけしながら早めにさり気なくトイレに誘導するなど羞恥心・不安軽減に努めている。排泄用品の選択、乳製品の活用や水分調節による便秘予防など、個々に合わせた工夫をプランにも組み込み、言葉使いをはじめ本人の誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分・排便のチェック表を利用し、職員全員が把握できるようにしている。食物繊維の多い食材の活用や水分量を増やして自然排便を促す。排便困難時は、医師の指示にて頓服にて排便コントロールを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は利用者の体調や希望に応じて、週2～3回実施している。また、入浴台などの福祉用具を使い、利用者の状態に応じて介助を行っている。湯の温度や脱衣所と浴室内の温度調節に留意している。	利用者の健康状態や希望にも配慮し、シャワー浴や清拭・足浴への変更を含め、週に2～3回の入浴をゆったりと安心して楽しめるよう、声かけや誘導も工夫しながら柔軟に支援している。脱衣所と浴室内の温度調節や希望に沿った湯温調節とともに、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の毎日の様子や体調を把握し、休息の時間がいつでも取れるよう居室やホールのソファで休んでいただいている。快適に過ごせるよう室温にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は薬局で基本一包化している。服薬援助時、利用者の名前や声かけ、薬の手渡し、飲み込むまで、見守りを行っている。薬情書綴を職員全員が周知できる場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物などの家事のお手伝いをお願いしている。利用者個々の楽しみや得意なことをレクリエーションの内容に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により個別に外出できるように支援に努めている。法人の合同行事や季節の行事での車での外出の支援を行っている。天気の良い日は、職員や家族と散歩を行っている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って、職員もしくは家族と日常的に散歩や買い物、ドライブに出かけている。また、ホームに隣接する菜園での野菜や花の栽培、手入れも利用者で行っている。季節の花見や初詣、ソーメン流し、地域の運動会、関連施設との交流、ドライブを兼ねた外食など、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。家族の協力による墓参りや法事、一時帰宅や外泊、外食等も積極的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関しては、入居時に家族と相談しているが、現在自己管理している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望により電話を取次いだり、手紙のやり取りや代読を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、所々にソファを置いていつでも座ってくつろいでもらっています。中庭にはベンチを配置し、木々を鑑賞して頂いています。施設の隣の畑に季節の花や野菜を栽培している。ひな祭りにひな人形を飾ったり、季節感を取り入れる工夫を行っている。	ホームに隣接の菜園には野菜や花が栽培され、中庭にはベンチも置かれて季節によって咲く花が楽しめる木々もある。リビングはゆったりとしたスペースで明るく、室温や換気調節、清潔感にも十分に配慮がなされ、ソファ・椅子・テーブルなどが配置されている。季節の花や観葉植物なども置かれ、壁には手作りの作品等も掲示されている。和室には仏壇や神棚もあり、玄関には人形や生花をはじめとして季節に応じた飾り物が置かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは広く椅子やソファを設置し、利用者が1人でも2人でものんびり時間が過ごせる工夫をしている。ホールの隣は、和室で仏壇や神棚があり、利用者の憩いの場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた馴染みの物を家族に持参していただいている。家族と一緒に写真を飾ったり、仏壇や好きな物を置いたりしている利用者もいます。	落ち着いて居心地よく過ごせる居室になるように、家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。入り口には月ごとの壁飾りがあり、利用者馴染みのテレビや時計・家具・カレンダー・身の回りの小物等を持ち込んでもらっている。ホームから洗面台やベッド、棚、エアコンが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置を表示した紙が貼っている。廊下やトイレには手すりを設置している。トイレの前には、「使用中」、「あき」とめくれる札を下げている。利用者が歩行する所に障害物を置かないよう環境整備に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない